

Jupiter

ジュピター

岡山県精神科医療センター理念 | 人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。



中2入院棟で育てたトマト

小ぶりですが、太陽に向きしっかりと立っています



当センターのシンボルマークは
安心・安全の医療を表しています

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

表紙写真：東入院棟の屋上にあるオリーブの木

CONTENTS

2 新副理事長就任のご挨拶

研修レポート

4 ①医療安全研修

②看護部新任者研修〜同期会〜

5 Dr. Takashi Sumai
Saga 便り

6 岡山県依存症治療拠点機関

7 あじさい成長記

7 行動制限最小化について

7 精神科病棟ではたらく人のための
感染対策きほんの「き」

8 人薬 ―ひとぐすり―

第五回 精神保健福祉士・谷口斐香

9 地域連携室だより

9 がん検診を勧めています

10 デイケアの部活動が

盛り上がっています！

10 サンクトフリーマーケット2022秋

11 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター
令和4年度計画

〜第4期中期計画を踏まえて〜

12 EVENT REPORT

・東古松サント診療所 デイケア
・岡山県精神科医療センター デイケア

当センターはさらに多様な機能と
考え方を育んでいって、
精神医療のロールモデルに
なっていってほしいと思います。



副理事長
山田了士
INTERVIEW

令和4年4月より、山田了士先生を
新副理事長としてお迎えしました。
そして、当センターは第4期中期計画へ向けて
大きく踏み出しました。
今回、山田副理事長が現在まで
どのような道を歩んでこられたのか、
お話を伺いました。

皆さん、こんにちは。
この度4月から岡山県精神
科医療センターにお世話に
なっている山田了士と申しま
す。名字に比べて名前の方が難
読で、「のりひと」と読むので
が、まだ一度も初見で正しく読
んでもらったことがありませ
ん。

私は1956年徳島市で生
まれ、在阪のセリーグプロ野
球団のファンという病気に
罹りましたが、何とか育ちまし
た。中学から香川の高松へ、そ
して岡山大学へと進みました。
学生の時に精神科入局の相談
に行ったときの医局長が、現当
センター理事長の中島先生で、
その時からもう40年以上お世
話になっていることになりま
す。医師となって岡山大学病院
や広島市民病院などで勤務し
た後、1989年から2年間、
ニュージブランドのオタゴ大
学というところに留学しまし
た。オタゴ大学はダニーデンと
いう町にあるのですが、10万人

ちょっとした人口なのに学生だ
けでも2万人もいて、欧米やア
ジアなど世界中から学生や研
究者が集まる活気のあるところ
でした。その多様な環境にい
たことは自分の価値観に影響
があったと思います。また、
ちょうどバブル絶頂期の日本
にいなかったのも面白い巡り
合わせだったかもしれません。
帰国後は岡山大学病院で
色々な分野の診療や研究をし
て過ごし、多くの方々のお世話
になりながら、自分の方向性を
模索しました。2007年に
なってその頃関わっていた緩
和ケアの仕事をしばらくの間
すっかりやりたいと思い、川崎
医科大学の精神科に移って、気
持ちよく存分に仕事をさせて
いただきました。緩和ケアの仕
事は、薬物などによる苦痛の緩
和とやらんで「人薬」が最も大
切であると著名な柏木哲夫先
生が言われているように、精神
医療とそっくりなのです。な
お、当時は川崎医療福祉大学の

教員も兼務していて、臨床心理
学科やリハビリテーション学
科の学生さんにもたくさん講
義などをしたので、その時の学
生さんで当センターに就職さ
れた方がおられるかもしれま
せん。もし覚えていて下さった
ら、遠慮なく声をかけて下さ



い。そういうするうちに想像も
していなかった異変が起こっ
て、2015年春に岡山大学大
学院精神神経病態学教室に教
授として帰ることになりました。
その後7年間は本当に充実
した日々でした。私自身は欠
陥や欠点が多い人間ですけれ

ども、これまで行く先々で本
当に人に恵まれて、とても幸せな
職業生活を送らせてもらった
ことを感謝しています。
大学を定年退職していくつ
か道はありましたが、当セン
ターの、難治な統合失調症や行
動障害のある人に、いかなる時
でも対応し、多職種と地域で支
える臨床とその未来に魅力を
感じて拾っていただくことに
なりました。今までの私は、神
経精神医学という神経内科と
の境界領域や、身体救急・外科
などのリエゾン、緩和ケア、
痛みの精神科治療といった総
合病院型の精神医療を主な診
療活動にしてきました。一口に
精神医療と言っても物凄く多
様な内容があり、当センターと
大学病院でもフィールドが
かなり異なるところもあります。
その意味で当センターの臨床
については私も知らないこと
ばかりなので、皆さんに色々
教えて頂かなければなりません。
もちろん私の方でも、これ
までの経験から皆さんのお役
に立てることがあればと思っ
ていますので、何か聞いてみよ
うと思ったら遠慮せず声をか
けて下さい。

当センターに来て3カ月、あ
ちこち徘徊(?)して実感した
のは、それぞれの部門の方々
が、想像以上に自律的な仕事を
しておられるということです。

もちろんこれは中島理事長、来
任院長の優れたリーダーシッ
プと人間力のおかげもあるで
しょうが、これだけ多くのプロ
意識を持った方々が集まって
いること自体驚くべきで、だか
らこそ全国でも有数の精神科
病院として名を馳せているの
だと思えます。ちなみにある心
理学研究によれば、同じケアの
仕事をしている人でも、一つ一
つのニーズに受け身で対応し

ている人より、自ら主体的に向
かい合っていく人の方が「自
我消耗」という自制力の低下を
起こしにくく、バーンアウトと
か非倫理的行動といった問題
の減少につながるのだそうで
す。当センターは確かに非常に
忙しい病院ではありますが、そ
ういう主体的な働き方をされ
ている人が多いように感じて
おります。
精神医療はこれから相当に

変化していく気配が色濃くあ
りますし、また当センターが乗
り越えるべき問題も種々ある
ことでしょう。しかし、当セン
ターはさらに多様な機能と考
え方を育んでいって、精神医療
のロールモデルになっていっ
てほしいと思います。これから
皆さんとともに過ごさせてい
ただくことをありがたく思っ
ています。どうぞよろしくお願
いいたします。



医療安全研修

6月10日(金)、「医療安全研修」を開催しました。毎年必須研修として、全職員対象に年2回開催されていますが、初心にかえることを思い出させてくれる、とても大切な研修です。「医療安全」という名前なので、もちろん医療行為を行う際のインシデント(出来事・辞令)に関する報告や統計が主な内容ですが、大きな意味で捉える様々な職種が行う、どのような業務についてもあてはまる考え方を考える上でよく安全対策を考える上でよく

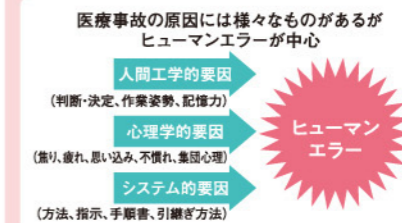


医療安全委員長
村上師長より総括

医療安全研修の様子

用いられるのが「スイスチーズモデル」です。チーズの穴が潜在的要因であり、チーズの穴を通過して進行する矢印が即発的エラー(ヒューマンエラー)やシステムのエラー等と例えられます。事故は単独で発生するのではなく複数の事象が連鎖して発生すると考えられるため、小さなミスに対策を講じることで、大きなミスを防いでいく必要があります。日々の業務の中には「当たり前」になっていることが多く存在しますが、「小さな気づき」を受け流すのではなく、一度立ち止まり「なぜ?」と分析し問題の真因を導き出す行動を怠ってはいけな

ヒューマンエラー発生メカニズム



看護部新任者研修と同期会

6月20日(月)、看護部新任者研修の一環として「同期会」が開催されました。今までは新卒者だけで集まる「たまごの会」でしたが、経験者も含め絆を深めてほしいという想いで「同期会」として開催することにしました。まずはじめに、教育担当者より「新人看護師のストレス」について話がありました。どの業



講演者は坂本看護師(左)と中田看護師(右)

いと強く感じます。今後も全職種、全職員一丸となり、患者さんの安全を守るため努力し続けたいと思います。

界でも「入職3カ月の壁」があると言われていますが、精神科の新人看護師は先輩から教えてもらった情報の整理が追い付かなかつたり、患者さんの言動から受けるもどかしさや自分の出来なさを感じたりと、ジレンマに陥る傾向があるそうです。さらに、コロナ禍で会食の機会が減ったり、黙食しなればならなかったり、様々なストレスを抱えていると思います。研修後半のグループワークでは、自分がどんなストレスを抱えているか、どのように対処しているのかお互いに話し合い



メンタルヘルスについて



グループワークの様子

ました。「悩んでいるのは自分だけじゃないんだ」とホッとした表情を見せる新任者も見受けられました。ストレスをゼロにするのは難しいと思いますが、自分の心身に関心を持ち、どう向き合っていくかセルフケアをすることが大切なのではないでしょうか。また、仕事仲間が少し元気がないな、と感じたら声をかけてみるなど、中島理事長がいつもおっしゃる「元氣玉」をさりげなく渡してみるのはいかがでしょうか。「元氣玉」は、もらった人はもちろん、それ以上に渡した人が元氣になるという性質があるようです。まずは自分ができることから始めてみましょう。

Dr.Takashi Sunami Saga便り

2014年4月~2018年3月まで当センターに在籍し、現在は佐賀県医療センター好生館の精神科で医長を務めていらっしゃる角南隆史先生から近況報告が届きました。角南先生の佐賀県でのご活躍の様子をご紹介します。



—当センターで過ごした4年間はいかがでしたか?—

みなさま、ご無沙汰しています。岡山県精神科医療センターには、2014年4月から2018年3月までの4年間、お世話になりました。主に依存症外来・病棟を橋本先生のもとで担当しました。2014年というのは、「危険ドラッグ」で世の中が揺れ動いていた時期です。赴任当初は「大変な病院に来てしまった」と後悔しておりました。しかし、当センターが精神科病院としてありえないような好立地にあること、近隣

の医療機関や行政機関との連携が出来ていること、そして中島先生、来住先生のもとで病院全体が何事にも意欲的に取り組んでいることから、これまでに診たことのない患者さんに出会い、そして学ばせていただくことができ、とても貴重な経験をさせていただきました。あらためて感謝申し上げます。

—現在お勤めの病院では何をされていますか?—

現在は佐賀市内の総合病院の精神科に勤務しています。こちらに来て早いもので5年目になりました。午前は精神科外来、午後は病棟を回って精神科リ



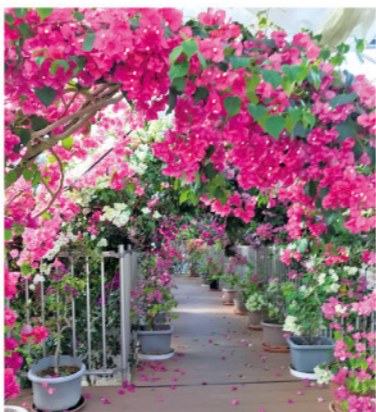
(上)2018年に京都で開催された国際学会
(左)佐賀県医療センター好生館で上司の石井先生と、(右)橋本望先生と当センターにて

エゾンをしています。精神科外来については、岡山では様々な依存症の患者さんを中心に担当していました。佐賀ではアルコール依存症の患者さんだけでなく、身体疾患に伴う抑うつ状態の方、メンタル不調で休職中の方、そのほか神経症の方などこれまであまり診療経験の

なかった患者さんを担当しています。午後の精神科リエゾンについては、主にせん妄の患者さんの診察依頼が多いのですが、過量服薬や自殺企図の方への対応なども行っています。

—オフの過ごし方は?—

余暇については、こういうご時世ですから、近場をウロウロしています。学会・研修会や会議が全てオンラインになった分、遠方の仲間と直接会う機会はなくまりました。しかし旧知の仲であればオンラインでも通じ合えるのではないかと(勝手に)思っています。その代わり家族と過ごす時間が増えて、それはそれで良いのではないかと、思っています。というところで、ここ数年で世の中がガラッと変わっていましたが、こういう時代だからこそ、あらためて断酒会の方が言われていた「一日一日を平凡に



(上)ブーゲンハウス雑草
(下)川上映春まつり(このぼりの吹流し)

生きる」ことの大切さを感じています。今後ともよろしく願っています。

—何かニユースはありますか?—

臨床研究の成果としては、岡山にいたるときからしていた、オンライン版飲酒日記プログラム(SNAPPY-DOC)の効果検証研究を行い、論文化し、プログラムの一般公開をすることができました。詳細は左記のサイトをご覧ください。

SNAPPY飲酒チェックツールをぜひご利用ください

<https://snappy.udb.jp/>

このほか、飲酒量のチェックができるSNAPPY-CATや、アルコールの心や体への影響について動画で説明しているSNAPPY-BEARなどがあります。





瑞々しい紫陽花が
みんなの心を癒してくれました!!

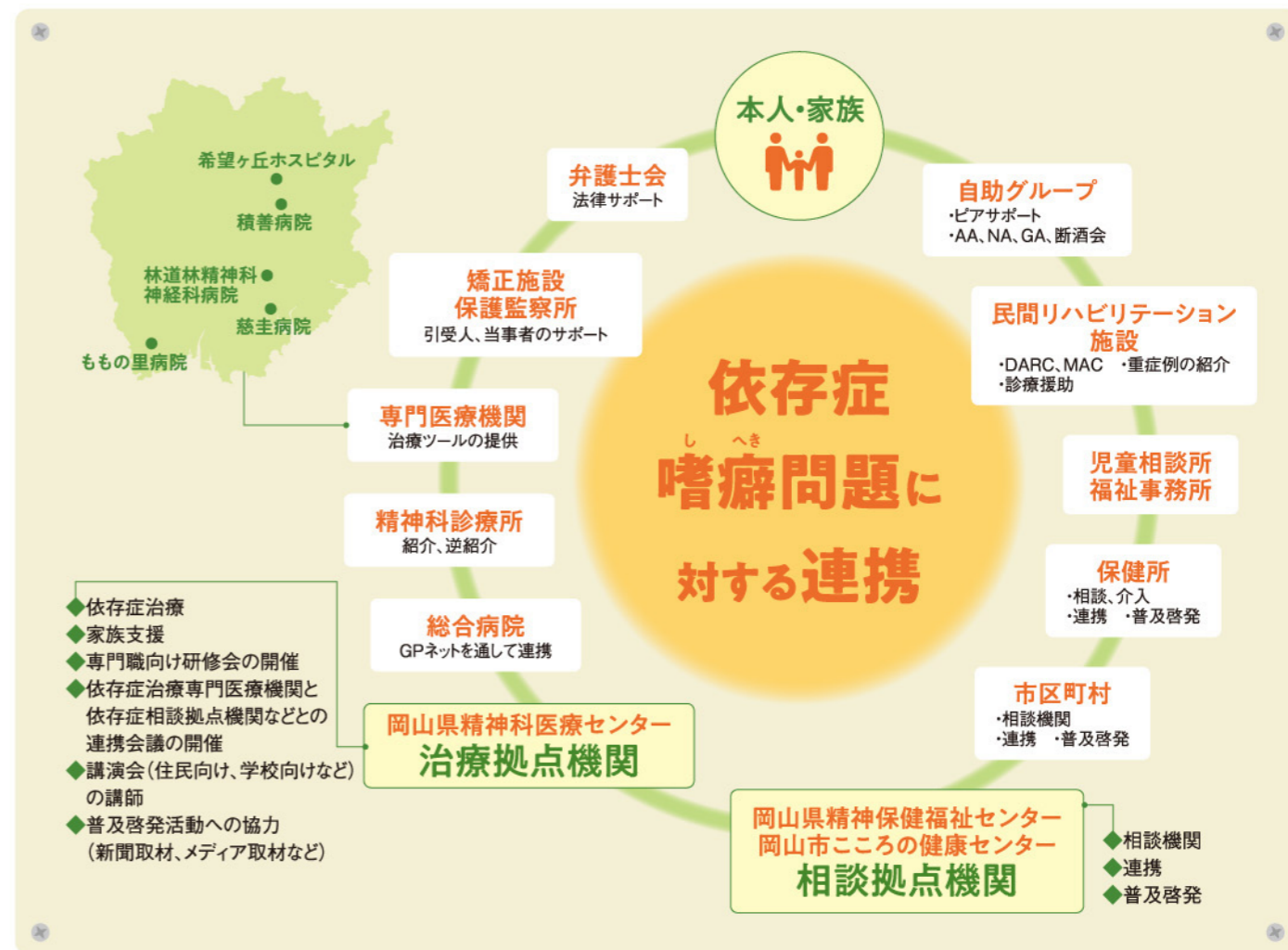
大の山場でしたが、外来スタッフみんなで水やりをし成長を見守りました。その甲斐あって無事に根が付き、今年きれいな青色の花を咲かせてくれました。しかしまだ茎が細く、大きい花を支える事ができません。路地に咲くたくましい紫陽花を目指してこれからも大切に育てていきたいと思います。瑞々しい紫陽花の色が、梅雨のジメジメした日々を過ごす私たちを癒してくれました。この季節ならではの紫陽花。来年も咲いてもらえるよう、お手入れを続けていきたいと思います。

初夏のある日、救急外来前の花壇に紫陽花が咲きました。この紫陽花は昨年に患者さんから鉢植えでいただいたもので、花が咲き終わった梅雨入り前に花壇に植え替えをしました。暑い夏を越せるかどうかが一番

あじさい成長記

岡山県依存症治療拠点機関

当センターは、岡山県依存症治療拠点機関として、下の図のように、様々な専門機関や団体と連携しながら、依存症・嗜癖問題に取り組んでいます。また、昨年度は各種依存問題介入テキストと、家族支援テキストを作成しました。各種テキストは当センターホームページから無料でダウンロードできますので、お気軽にご利用ください。



各種テキストの紹介



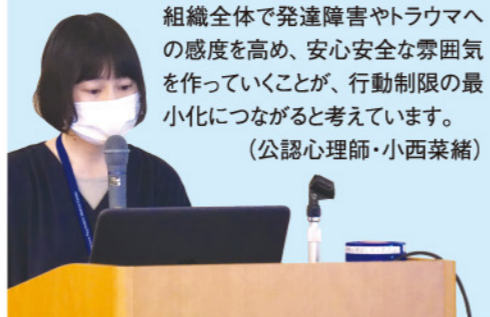
TOPICS
精神科特有の感染対策情報が詰まった書籍発行
精神科病棟ではたらく人のための
感染対策きほんの「き」



新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、全国的に精神科病院や介護施設でのクラスターがニュースとなり、改めて精神科領域での感染管理の大切さを実感しました。理想の感染対策は分かっている、実行することが難しい中、精神科領域で感染管理を行っている様々な病院、施設から知恵を出し合い「精神科病棟ではたらく人のための感染対策 きほんのき」という1冊の本が出来上がりました。新型コロナウイルス感染症の収束後の日常の感染管理にも役立つ情報がたくさん詰まっていますので、ぜひ手に取ってみてください。(医師・金澤桂子)



患者さんの支援を考える際には、目に見える、困った行動や状態だけに注目するのではなく、それらのベースにあるご本人の特徴や環境との相互作用を見立てることが大切です。特に発達障害の特性やトラウマ問題の見立ては、困った行動の背景を考える際に欠かせない視点といわれています。トラウマ問題に関しては、トラウマに特化した治療以前に、生活の中での感情への気づきやコントロール力を高める「トラウマインフォームドケア」が土台になります。組織全体で発達障害やトラウマへの感度を高め、安心安全な雰囲気を作っていくことが、行動制限の最小化につながると考えています。(公認心理師・小西菜緒)



行動制限最小化について

疲れたり悩んだ時に、
思い出してもらえ
存在になりたい。



INTERVIEW 精神保健福祉士・谷口斐香

地域連携室だより

患者さんの健康のために…

がん検診を勧めています

現在、日本では2人に1人が「がん」となると言われています。厚生労働省では、がんの早期発見・早期治療のため、がん検診の受診率を50%にすることを目標にしています。しかし、統合失調症の患者さんをみると、受診率は一般住民の約2分の1という格差があるそうです。当センターでは、外来患者さんにごがん検診を勧める活動を行っています。今回は「大腸がん検診」を勧める様子をご案内します。



医師

かかりつけの精神科医療機関で、がん検診を勧められた患者さんは、一般住民と同程度の受診率まで上がることが分かっています。がん検診が気になるけれど、よくわからない為に受けたことがなかった患者さんからは、「外来スタッフからの説明や案内がとても助かった」という声をいただいています。



医師

大腸がん検診とは…

住民票のある市町村が実施します。5月ごろから自宅にパンフレットが届きます。たくさんの医療機関で検診を受けることができます。

- 対象者 40歳以上
- 自己負担金 500~1,000円程度 ※無料券を利用できる場合があります。



精神保健福祉士

「大腸がん検診」を勧めています



今、がんは治る時代になっています。早く見つけて治療を受けることがとても大切です!



看護師

アルコール依存症など身体合併症のリスクが高い患者さんにも、ぜひお勧めしたいです。



精神保健福祉士

大腸がんは自覚症状が少ないので早期発見が重要です。便潜血検査の方法や、検診ができる医療機関について詳しくお伝えしています。



看護師

詳細は地域連携室までお問い合わせください



地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター

- 連携室直通 / tel.086-225-3833 (9:00~16:30) fax.086-225-3855
- 住所 / 〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16
- 代表 / tel.086-225-3821 (24時間対応)



「家族教室」

私が当センターに就職して早いもので12年が経過しました。現在は児童思春期入院棟に配属されて3年目となります。その間、配属先は変わっても関わり続けていることがあります。それは家族教室です。「人薬」という言葉から思い浮かんだこの1つも家族教室でした。当センターで私が関わっている家族教室は、初発統合失調症家族への支援プログラム「FISPEAK」と、昨年度から新たに立ち上げた児童思春期家族教室「Porto」です。どちらも1クール4回開催しており、1回のセッションの前半は情報提供、後半はグループワークを行い、ご家族が実際に相談したいことをテーマに話し合います。参加したご家族からは「同じ体験をしている人がいることに勇気づけられた」「親戚にも友達にも言えないことも話せた」「ここに来るのが楽しみ」といった感想が寄せられます。私は長く家族教室に関わり、教室の中でご家族が自身の経験や体験を共有し、他のご家族と交流することで少しずつ笑顔が増え、来た時より少しでも元気になってお帰りになる姿を見送る時、ご家族自身の持つ内なる力を感じずにはいられません。

児童思春期デイケアでの関わりで感じること

「人薬」というテーマで思い浮かんだことの2つ目は、デイケアです。私は児童思春期部門の担当として週に1回開かれる児童思春期デイケアにも関わっています。利用しているお子さんの過ごし方はさまざまです。物づくりをしたり、仲間のおしゃべりやゲーム、卓球をしたり、スタッフに相談事をしたり、もちろん何もせずのんびり過ごすこともOKです。主な私の業務は入院しているお子さんの入院中から退院後の生活のサポートですので、必然的に入院しているお子さんとの関わりが増えます。退院が近づいたお子さんの何人かは「退院したらデイケア来ていい？」と尋ねてきます。人付き合いが苦手、退院しても学校に行けるか不安というお子さんが少なくない中、デイケアには「来た」と言ってくれるのです。理由を聞くと「退院した○○さんに会いたい」「スタッフの○○さんに話聞いて欲しい」というお子さんがほとんどです。それは入院生活の中で子どもたちが仲間意識を持ち、大人の見守りの中で得られた安心感があるからこそではないかと思えます。退院後もデイケアという社会とつながり、仲間と過ごすことで自信をつけ、成長して

安心感の基に回復がある

私は、「人薬」は人と人とのつながりから得られるのではないかと思います。「居場所がある」「一人じゃない」「会いたい人がいる」「相談できる人がいる」「分かってくれる人がいる」「仲間がいる」そうした安心感の基に回復があるのではないのでしょうか。私は精神保健福祉士として、家族教室やデイケアだけでなく、ご本人やご家族が帰っていく場所や社会が安心できる環境となるようにサポートしていくと同時に、自分自身もご本人やご家族が疲れたり悩んだりした時には「会いに行こうかな」「相談してみようかな」と思い出してもらえ存在となれるよう目の前のご本人やご家族と関わっていきたいと思います。



4月からメンバー主体で部活動が始動しました。デイケアにはご意見箱があり、その中に寄せられたアイデアが形になったという流れです。

部をつくる必須条件は、①部員を3名集めること②デイケア内での活動であること③会則を作ること④スタッフを顧問として置くことの4つです。デイケアには8名のスタッフ



卓球部の活動風景

が在籍しているので、最大8団体まで作ることができですが、現在5つの部(麻雀部・卓球部・入門太極拳・美術部・企画部)が活動しています。

部員集めは、部活動掲示板にポスターが貼られたり、興味がありそうな方へ直接声をかけたり、部員が率先して動いています。部によって活動日時や内容は違いますが、メンバーもスタッフも一緒に楽しんでいます。部活動の効果は色々ありますが、メンバー同士の交流が深まることにより活動性が高まるのと、才能や関心の発見にもつながっています。



美術部の作品は展示スペースにあります

美術部

期ごとにテーマに沿った作品を作り、展示しています。現在は「初夏」をテーマに絵画や折り紙、手仕事作品が並んでいます。

麻雀部

メンバーが集まった日はゲームをしています。週に一度講習会を開き、新たにやってみたい方へ手厚くサポートしています。いつか麻雀大会を開催したいという野望があります。



入門太極拳サークル

毎週金曜日の「からだ元気」終了後30分ほどの間で、得意なメンバーが他のメンバーに教える形で汗を流しています。目標は秋ぐらいに中庭で太極拳をすることです。



地方独立行政法人岡山県精神科医療センター 令和4年度計画 第4期中期計画を踏まえて

第4期中期計画

〔岡山県保健医療計画〕、「岡山県障害福祉計画」等に基づき、精神疾患のみならず、身体疾患を有する患者に対しても、他の医療機関と連携しながら、多様化する医療ニーズに対応すること。

第3 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 精神科医療の中核病院としての役割の発揮

- (1) 政策的医療の推進
- (2) 重点的に取り組む医療
- (3) 県内の精神科医療水準の向上
- (4) 精神科医療及び精神保健福祉に関する知識の普及

2 患者の尊厳を重視した医療の提供

患者中心の医療を常に実践するため、職員に求められる行動規範や職業倫理について教育委員会等で検討し、研修を通じて職員に徹底する。また医療情報の開示については、法令の遵守や個人情報保護に配慮した上で、患者や家族への積極的な開示に取り組むとともに、統計データを見える化し、検証可能な形にしていくことで、診療情報の透明化を図る。

3 医療の質及び安全の確保

- (1) 医療水準の向上
- (2) 医療安全対策の徹底・検証
- (3) 在宅医療充実のための体制整備
- (4) 患者の自立と社会参加へ向けての取り組みの強化

令和4年度計画 第3 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1.精神科医療の中核病院としての役割の発揮	
常時対応型精神科救急体制	患者の様々な病態に24時間365日迅速に対応する。また入院患者の退院促進、地域定着を図り、常時受け入れ病床を確保する。
医療観察法入院医療機関としての中心的な役割	当センターが高いワザルリ治療導入率があることから、県内だけでなく県外からの困難事例を受け入れ、精神症状の改善を行った後に、転院元に戻すなど医療観察法の中心的な役割を果たす。
複雑困難で多様化するニーズへの対応	児童・思春期、周産期母子、DV、虐待等の家庭問題、ホームレス、社会的ひきこもり等、他の精神科病院・診療所では対応困難な課題を抱えた事例に対応するため、様々な分野の関係機関と連携し、地域完結型の支援体制の構築を目指す。
新型コロナウイルス感染症への対応	● 県内唯一の協力精神科医療機関として、新型コロナウイルス感染症対策岡山県調整本部の指示のもと、速やかに受け入れを行う。 ● 外来患者の中に発熱等があり感染症の疑いがある場合や、医師に感染症の疑いがある場合においても医療を滞らせることがないよう迅速診療ができる体制を整備する。
児童・思春期精神疾患患者への医療	児童・思春期患者においても24時間365日緊急対応がとれるよう、児童相談所等行政機関と連携を強化し、体制を整備する。
発達障害者への医療	今年度も継続して発達障害について身近に相談できる「かかりつけ医」等の医療従事者に対し、診療等の知識や技術を習得する内容の研修会を開催する。
周産期母子に係る医療	妊娠期・産後メンタルヘルスについては、産後初期に精神的に不安定化し、急激な悪化が見込まれる場合が多いため、産婦人科や保健師と連携しながら緊急時は即日対応する。あわせて継続して外来でフォローアップを行う。
治療抵抗性精神疾患について	県内のどこに住んでいても、どこでも医療機関にかかっても、高度で先進的な医療を受けられるよう、他の精神科病院が修正型電気けいれん療法(mECT)や治療薬クロザピンを導入する際の総合病院との連携の手助けをする。
依存症患者に対する医療について	県内の依存症を抱える患者に対して、関係機関と連携しながら、入院、外来、訪問等の機能を活かし、幅広く質の高い依存症治療支援を展開する。また緊急の患者に対応できるよう、空床の管理を徹底する。
治験・臨床研究の推進	安全でより有効な精神科医療の発展に寄与するため、統合失調症患者を対象とした新しい精神科治療薬の治験に積極的に参画する。
専門知識の普及	県内の精神科医療の質の向上とネットワーク強化のため、医療従事者を対象とした研修会等の開催し、専門知識や研究成果の普及を行う。なお広く研修会を告知するため、当センターホームページを活用する。
自殺対策・うつ病対策	● 自殺リスクのある患者、うつ病等の患者を積極的に受け入れる。併せて自殺の背景として、うつ病等の心の問題のほか、家庭や学校、職場、地域などの社会的要因が複雑に関係することから岡山県と協働し多方面と連携を強化する。 ● 岡山県産業保健総合支援センターからの依頼を受け、職場のメンタルヘルスに関する講演を開催する。
2.患者の尊厳を重視した医療の提供	
患者中心の医療	院内教育委員会より、患者の権利を尊重した患者中心の医療、安心・安全の医療を提供できる職員の育成を目的とした研修会を開催する。あわせて、子どもの権利擁護についても職員の意識を高める研修会を開催する。
3.医療の質及び安全の確保	
医療水準の向上	● 精神疾患だけでなく、身体疾患を伴う患者については、大学病院等と連携を強化し、診断に基づいて適切な医療の提供を行う。 ● 高度かつ専門的な医療を提供するため、日常業務内の実践的な研修だけでなく専門研修へ積極的に参加する。また、院内で専門性に特化した研修会を開催することで知識や技術の均てん化を図る。 ● 専門的資格取得の支援や育成に取り組む。
医療安全対策の徹底・検証	データ分析ソリューションを導入することで、チェック機能やシステム上での医療事故防止対策を強化し、安全で安心な医療の提供に前向きに取り組む風土を育む。また、透明性を高め、事故の度合いに関わらず多くのインシデントレポートを集め、病院をあげて医療安全管理、医療事故防止対策を推進する。
4.患者の自立と社会参加へ向けての取組の強化	
地域移行・地域定着支援	引き続き、全病棟に精神保健福祉士を配置し、入院初期から患者・家族が抱える経済的不安や問題に迅速に対応することで安心して入院治療が受けられる環境整備を推進する。また、退院後も継続して支援が必要な入院患者には、退院後も担当の精神保健福祉士を退院後生活環境相談員とすることで、安心して生活できるよう支援する。
身体疾患を合併する患者の連携	● 総合病院から身体疾患を合併する患者の受け入れの要請を受けた際は、速やかに入院調整を行う。入院期間中も内科医による診療や医療機器、検査機器の整備を行い、適切な医療の提供ができる体制を整える。 ● 当センター入院中の患者に身体的医療が必要になった際は、速やかに一般病院との連携を図る。特に必要な場合は、転院先の病院で看護体制をとる。
在宅医療の充実	患者の病状や自立度・生活状況に応じ、効果的に在宅医療・障害福祉サービスが提供できるよう医療機関や行政、障害福祉等の関係機関との連携を強化する。あわせてICTの活用、土日勤務などスタッフの柔軟な働き方を推進し在宅支援部門の体制を強化することで患者の治療継続と地域生活の安定を支援する。
第4 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
経営会議の開催	医療ニーズの変化に柔軟に対応するため、週に1回経営に関わる会議を開催し統計データを提示することで様々な院内の課題を共有し、病院機能の向上を図るとともに、効率的な業務改善・業務運営に取り組む。
収益の確保	診療報酬改定等をはじめ、各種制度の変化に迅速に対応し収益の確保に努める。
第10 その他業務運営に関する重要事項	
ワークライフバランスの実現	働きやすい職場環境を整えるため、スマートフォンやICカードを用いた勤怠管理システムを導入し見える化することで過重労働を防止するよう取り組む。また、医師の働き方改革についても対応する。

東古松サント診療所に遊びに来てね!

サントフリーマーケット 2022秋

14:30~ 高瀬所長・職員によるミニ講座開催

2022年11月5日(土) 13:00~15:00

来場者の方にプレゼントがあります!

※雨天時・コロナの感染状況によっては中止します。
※車での来所はご遠慮ください。
※会場内の飲食はご遠慮ください。

出店一覧

- アトリエ ふみりお
 - デニム小物(クリップ、マグネット、メモスタンド、メモ帳)
 - ノッティング ●あみぐるみ など
- アショ・ポシヨ
 - オリジナルスバイス、手づくり雑貨
- Heart to Heart
 - 髪留め、アロマキャンドル
 - 着袋、ペットのおやつ(ジャーキー) など
- ふくじゅう
 - 漬物
 - フードロス商品 (飲料、レトルト商品、即席調味料など)
- ステップハウスわ!
 - 米粉クッキー
 - 手作り小物 (刺し子ポシェット、バッグ、裂織バッグ、手織りマフラー・ショール)
 - 手細工小物、ビーズ細工
- にこにこパン
 - クリームクロワッサン、メロンパン、照り焼きチキンピザなどの調理パン・菓子パン
- フィールド
 - 手作り雑貨 (ポーチ・エコバックなど)
 - 古着、バック、小物 など

日用品・服・手芸品

(例)牛乳パックの椅子、ぬいぐるみ、刺し子 など

その他、自宅での不用品などありましたら、寄付をお待ちしております。

お問い合わせ先 東古松サント診療所 TEL.086-225-7766 (担当/初鳥)

EVENT REPORT



東古松サント診療所
デイケア
ワクワクでコロナを乗り切ろう!

5月7日(土)に、「東古松サント診療所フリーマーケット」を開催。診療所や利用者8名の出店や、就労継続支援A型・B型事業所から7社の出店があり、とても賑わいました。また、高瀬所長が「リカバリーの木の体験」の講話、作業療法士の初鳥が「リカバリーの木の体験」ワークを行いました。来場者91名、出店事業所46名、利用者51名の計188名が参加しました。普段作っているものを出品できるように事前準備をし、昨年より大きな達成感が味わえました。また、格安日用品を手に入れることができ、満足された方も多かったようです。



高瀬所長による講話



フリーマーケット

5月28日(土)は、僧侶であり、当診療所の公認心理師の稲谷による「色々な宗派の違い」についての講話がありました。積極的にお布施や戒名についての質問があり、利用者の関心の高さがうかがわれました。
6月11日(土)は、3年ぶりに三菱自動車工業(株)水島製作所のボランティア団体「くるま座」による水戸黄門、銭形平治、臉の母などの公演がありました。「自分と重なり、涙が出た」と涙を流しながら楽しむ利用者もいました。
今年の夏も暑くなると思いますが、みんなで乗り切っていきたいと思えます。



僧侶で公認心理師・稲谷による講話

ボランティア団体「くるま座」による公演



岡山県精神科医療センター
デイケア
お気に入りの香り増やして、暑い夏を乗り切ろう!

5月は「アロマウィーク」。梅雨入りする前に、マイアロマスプレーを作りました。好きな香りを纏う感覚は、気持ちの切り替えに役立つことでしょうか。枕やマスクにワンプッシュして胸いっぱい香りを感じ、自分だけの空間を楽しんでほしいです。
6月は「染め物」2本立て。マープリングの手法で紙を染め、うちわを作りました。草木染めではTシャツやエコバッグなどを藍やタマネギの皮、紫根でカラフルに染めました。染め物の醍醐



好きな香りを選べます



自分だけのアロマスプレー



きれいなマープル模様!



真っ白なうちわをくぐらせ



好きな色の絵具を垂らす

味は、意図した通りにできなくても素敵な作品に仕上がるところです。初めて体験する人も楽しめます。今回は「デイケアの本棚もご紹介したい」と思います。図書館みたいな空間で落ち着きます。漫画や小説だけでなく、メンタルヘルスマガジン「まごころの元気+」や、病気や障害についての本が並んでいます。「コミュニケーション」や感情調節のヒントになる本もあり、自分の特性を知るきっかけやスキルを学ぶことができます。



品揃え豊富なデイケアの本棚



Tシャツやエコバッグなどの草木染め

編集後記

毎日暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。暑いとつい冷たい物を食べたり飲んだりしがちですが、あまり体を冷やすとバテてしまいますので、くれぐれもご注意ください。常温の飲み物は体への負担がかかりにくいので、おすすめです。中国では、わざわざ「冷たいビール」と言わない、「ビール」だけでは常温のものが運ばれてきます。また、夏野菜のキュウリやトマトなども、油で炒めて食べるのが主流です。中国人が冷たいものを好まない理由の1つは、中国医療(漢方)中医と呼ばれる伝統医学の考え方が根付いていることが影響していると考えられます。胃への負担を考えると納得ですが、やはり夏はキンキンに冷えた飲み物が美味しいですね。文化の違いはありますが、ほどほどにしたいところです。

さて、2022年夏号は12ページに拡大してお届けいたします!4月から山田了士先生を副理事長に迎え、新たな風が吹き始めています。巻頭ページでご紹介いたしますので、ぜひご覧ください。(事務部・志茂香代子)

Jupiter

2022年
夏号
VOL.47

2022年7月29日発行

発行人 中島 豊爾
編集人 来住 由樹
発行所 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター
岡山市北区鹿田本町3-16
TEL.086-225-3821代
ホームページ <https://www.popmc.jp>
制作協力 ㈱あどりえ、ぼう
印刷所 友野印刷㈱